

泌尿器科の新たな未来に向けて

泌尿器科学講座 (大森)

教授：中島耕一
永尾光一
講師：鈴木九里
田中祝江
小林秀行 (医局長)

系 譜

東邦大学泌尿器科学講座は、平成4年に大橋病院泌尿器科が第2講座として分離独立した時期もあったが、平成16年に再度1講座制に戻った。しかし平成24年4月からの機構改革で、現在は付属3病院泌尿器科にそれぞれ責任者としての教授が在籍している。1講座とはいえ3病院を含めると紙数が足りないため、本稿では大森病院泌尿器科について紹介させていただく。東邦大学泌尿器科学講座は帝国女子医学専門学校以来の皮膚科泌尿器科教室から昭和40年8月に分離独立した。泌尿器科初代教授として東京慈恵会医科大学ご出身の安藤 弘先生が着任された。

その後鈴木良二先生(昭和40年卒：前水戸赤十字病院部長)を筆頭に、本学出身の医局員が入局して現在の東邦大学泌尿器科の基礎が築かれてきた。安藤先生は第73回日本泌尿器科学会総会を主催されたのをはじめ各種の学会会長を歴任された。昭和53年に東北大学より白井將文先生が助教授として招聘され、昭和58年に第2代教授として昇任された。白井先生の着任によりandrologyとsexologyの基礎が新たに築かれた。当時本邦では初めてのリプロダクションセンターが婦人科と共同で開設されたことは特筆されるべきことと思われる。先生のご指導で、この間数多くの医局員が坂口賞や不妊学会賞などの賞を授与される機会に恵まれた。第3代教授には、平成2年に山形大学から赴任されていた石井延久先生が平成7年に就任された。またこの際同時に本学出身の三浦一陽先生もリプロダ



前列左から、山辺助教、鈴木講師、小林講師、中島教授、永尾教授、田中講師、上村助教、高杉助教。
中列左から、松井、齋藤、清水、青木(以上レジデント)、学生3名。
後列左から、中西(レジデント)、中島(レジデント)、岡(大学院生)、田井(レジデント)、胡留学生、学生2名



拡張された研究室1



拡張された研究室2

クションセンターの責任者として教授に昇任された。平成21年には永尾光一先生が教授に昇任され現在は大森病院リプロダクションセンター長を引き継いでいる。平成

23年に第4代教授として中島耕一が昇任して現在に至っている。今年の後期研修医が6人入局という椿事(?)があり、総勢16人というかつてない活況を呈している。

現況

臨床面では都内で7番目であるが腹腔鏡前立腺全摘術も導入することができ先端的治療から、365日24時間体制で幅広く患者さまを受け入れている。最近の手術としては腹腔鏡手術・難治性尿路結石症・女性泌尿器(骨盤底手術)に力を入れている。臨床泌尿器科医として保持しておきたい専門医資格は、泌尿器科専門医・指導医(日本泌尿器科学会)、腹腔鏡認定医(日本泌尿器内視鏡学会)、がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)が代表である。いずれも取得には修行年月が必要だが、最低これらの資格は取得できるように指導をしている。これ以外に当科の特徴としては性機能専門医(日本性機能学会)や生殖医療専門医

(日本生殖医学会)などの取得に勉強しやすい環境があるといえる。研究領域は伝統的にリプロダクション領域が中心になっているが、bench to bedsideを意識しつつ当面は尿路感染症・悪性腫瘍領域も柱にしていけるように人員を配置していく計画である。最近のtopicsとしてはiPS細胞を応用した精子幹細胞の研究が小林秀行講師を中心に行われて、日本泌尿器科学会などからの受賞を受け評価されている。

最後に

若い医局ではあるが逆にしびりが無いものと考え、医局員には自由に新しい分野への取り組みを勧めている。本年は日本泌尿器科学会も創立100年を迎える節目の年でもある。医局としても守るべき伝統は引き継ぎつつ、新たな発展をめざして邁進するので期待していただきたい。

(教授：中島耕一)